

子供の未来と 居場所のために

学習支援の会 ドルトン

篠原 史子

なぜ、学習支援なのか？

- 「子ども食堂」のお手伝いや、法人運営の「フードパントリー」の実施も経て…
- 上記はいずれも対象者にとってもありがたがられ、親の相談の場や、経済的な助け、子供の交流等の目的を果たしているのは明らかだが…
- 根本的に「**貧困の連鎖**」を断ち切るためには…？
- →子ども自身が生きていくために必要な「知力」「学力」（誰にも侵害されないもの）を獲得してほしい、人生をあきらめたり、仕方ないと言い訳し自分の限界を決めてほしくない、という思いからスタート(2021.4月)

ドルトン利用対象の子供

①本人に学習意欲があるが、経済的理由で学習塾などに行けない子供(おおむね、小学校高学年から中学生)

②親の理解と協力があること

③行きたい高校や、将来の夢があること

*申し込み時に、親の面談も実施

【開催日時】

※毎週(水)PM16:00～21:00

春日部市総合福祉センター「あしすと」にて

「学習支援」＝勉強を教えるだけ の場ではない

- 子供にとって、大切なマナー(挨拶や礼儀)を教える場
- 心理的なかわり(親や友人、学校の先生とは違った「大人」との会話)で何かを感じとったり得るものがある？
- 「決まった」曜日・時間に必ず「出席」することの重要性
- 「宿題」と向き合うことで自宅学習の「習慣」をつける
- 人との縁を大切にしたり、あたたかな気持ちの交流をつないでほしい

子供たちに伝えたいこと

- あきらめる大人になってもらいたくない
- 「お金がないから仕方なかった」を言い訳にしてほしくない
- 「わからない」が「わかる！」にかわる瞬間の喜びを味わってほしい
- 可能性や興味のあること、得意や好きなことにつながる何かを見つけてほしい
- 自分の人生は「自分で切り拓ける」ことを知ってほしい
- 将来「選択肢」を多く持てるよう、自分の人生をより豊かにしあわせにするために勉強が必要だと知ってほしい

学習支援の課題や問題点

- 参加者があつまりにくい(ハードルが高い?)
- 場所が問題で「来られない」という声も(親が仕事だと、生徒ひとりでの遅い時間の行き帰りがネックに)
- 学年がバラバラだと、ある程度の人数をこえるとこまやかに見られない
- 週1回、2~3時間の学習支援ではどうしても学力向上に限界がある

(自宅学習の方法検討? 親の協力を求める? 講師を増やし日数をふやす?)

今後の目標・展望

- 生徒数を増やし、生徒同士が競い合ったり、お互い切磋琢磨し良い刺激を与えあってほしい
- 「受験」目的の個人授業スタイルだけではなく「学校の宿題をみんなで」というくらいのゆるい「子どもの居場所」としての役割も…？
- 講師も、急な休みなどに対応できるという協力者を求め、長期継続的に負担のないようなシステムをつくっていきたい
- とにかく「高校受験合格」を！生徒の志望校に合格させることを最大の目標として支援していきたい

最後にみなさまに伝えたいこと

- 思っているよりも「子どもの貧困」は身近にたくさんあります
- もしも「自分に何かできるかな」「やってあげたい」と思われるのであれば、すぐそこに「助けられる場所」はあり「救える子ども」はいます
- 「考えているだけ」を、一歩先に進め、行動に起こしてみませんか？
- そんなおひとりおひとりの小さな「やさしさ」が周囲を必ず良い方向に変えます
- 「フードパントリー」「子ども食堂」など「子どもの居場所」もたくさんあります
- このような情報を共有したり、「横のつながり」を地域の中でもっていくことも大切です
- 未来ある子どもたちに、少しでも明るく幸せな日々を送ってもらえますように

☆彡ご清聴ありがとうございました☆彡